

令和4年1月14日

南の風 2021 ウインターカップ特集号VI

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

桜花学園の朝比奈選手を中心に、何処からでも得点できる経験豊富な安定した強さと、京都精華の下級生を中心に、攻撃力抜群の若い力がぶつかり合った素晴らしい決勝戦になりました。

また桜花学園は、『3連覇』が懸るプレッシャーの中、2回戦から決勝まで選手全員のチームワークで勝ち切り、優勝+3連覇という結果を残したことは、チームに新たな伝統を築いたと思います。

選手及びスタッフ、そして保護者の皆様、改めまして**本当におめでとうございました！！**
最終スタッツを書きます。

桜花学園		京都精華
61	T S	57
4/13 30.8%	3PT	6/16 37.5%
22/60 36.7%	2PT	17/57 29.8%
5/9 55.6%	F T	5/7 71.4%
38	T R	54
15	T O	24

スタッツの内容については、読者の皆さんが分析していただければと思います。

ここで、大会を通して桜花学園をすべてのゲームで牽引し優勝に導き、3連覇を達成した朝比奈あずさキャプテンの、準々決勝～決勝の個人記録を紹介します。

	PTS	3PFG	2PFG	F T	F	TR	TO	AS	ST	BS	MIN
準々決勝 明星学園戦	24	0	8/13	8/9	1	6	1	0	0	0	40
準決勝 昭和学戦	20	0	9/16	4/4	1	8	2	1	1	1	40
決勝 京都精華戦	14	0	6/19	2/3	1	5	1	2	4	0	40
TOTAL	58	0	23/48	14/16	3	19	4	3	5	1	120
			48%	87.5%							

朝比奈選手は、個人記録もちろんずば抜けて素晴らしいのですが、私が感じる一番の凄さは、ひたむきにハードワークをやり切るところです。例えば、トランジションで率先して走る。走った後すぐにポストをつくる。またガードのエントリーに対してドラッグスクリーンに行き、かかりが悪いと再びピックに行ったり、その後休む間もなくポストをつくったりするところ。ディフェンスでは、相手の留学生2人に体を張ったボディアップを最後までやり続け、決勝までに20点以上取っていた、ウチエ選手とジェシカ選手を6点と10点に封じたことです。

朝比奈選手は、2年連続ベスト5に選ばれ桜花の大黒柱としての存在感を遺憾なく発揮しました。

卒業後、彼女のますますの活躍を期待し、応援しようと思います！！